

小児がん拠点病院の指定に関する検討会

2019年2月7日



すべては、こどもの笑顔のために...



こども中心の医療と療育を目指して！

地方独立行政法人静岡県立病院機構

静岡県立こども病院



1. 小児がんの診療に関する施設の総合的な体制

小児に特化した高度な診療と患者・家族支援を実践するチーム医療

小児がん集学的治療

診療部

血液腫瘍科

小児外科

脳神経外科

耳鼻咽喉科

整形外科

泌尿器科

放射線治療科

小児がん診断

病理診断科

放射線診断科

全身管理・支持療法

循環器科

腎臓内科

内分泌科

感染症科

PICU

神経科

遺伝科

リハビリ科

歯科

薬剤室

薬物療法
服薬指導

小児がん
相談室

相談・
情報提供

地域医療
連携室

地域連携・
在宅医療



小児がん看護に従事するスペシャリスト

看護部

がん化学療法看護認定看護師

小児看護専門看護師

皮膚排泄ケア認定看護師

感染管理認定看護師

緩和ケア認定看護師

手術看護認定看護師

診療支援部

成長発達支援・教育・きょうだい支援

院内学級教諭

チャイルドライフスペシャリスト(CLS)

保育士

ホスピタルプレイスペシャリスト(HPS)

緩和ケア

緩和ケアチーム

グリーフケア部会

心理的支援

こころの診療科

臨床心理士

ファシリティードッグ

臨床検査・輸血

検査技師

放射線診断・治療

放射線技師

栄養管理

管理栄養士

リハビリ

理学療法士

作業療法士

言語療法士

2. キャンサーボードの体制について

腫瘍カンファレンス

- 対象：固形腫瘍
- 検討内容
 - ✓ 診断（画像、生検等診断方法、病理）
 - ✓ 治療（化学療法、外科療法、放射線療法の適応、選択、スケジュール）
- 参加者：血液腫瘍医、小児外科医、放射線科医、病理医、泌尿器科医、耳鼻咽喉科医、整形外科医、検査技師
- 頻度：月2回定期開催、必要時に臨時開催

多職種回診

- 内容：経過、治療方針、コメディカルからの情報の共有、ラウンド
- 参加者：血液腫瘍医、薬剤師、栄養士、がん化学療法看護認定看護師、CLS
- 頻度：週1回定期開催

多職種で情報共有

移植カンファレンス

- 対象：造血細胞移植を行う患者
- 内容：疾患、移植方法、看護情報提供
多職種で情報を共有、検討、確認
- 参加者：血液腫瘍医、病棟看護師、薬剤師
がん化学療法看護認定看護師、栄養士、理学療法士、CLS、臨床心理士

脳腫瘍カンファレンス

小児脳腫瘍専門医が参加

- 対象：脳腫瘍
- 検討内容
 - ✓ 診断（画像、生検等診断方法、病理）
 - ✓ 治療（化学療法、外科療法、放射線療法の適応、選択、スケジュール）
- 参加者：血液腫瘍医、神経腫瘍医（非常勤）、脳神経外科医（1名はトロント、ハーバード大学で小児脳腫瘍臨床・研究歴あり）、放射線科医、病理医
- 頻度：月1回定期開催、必要時に臨時開催

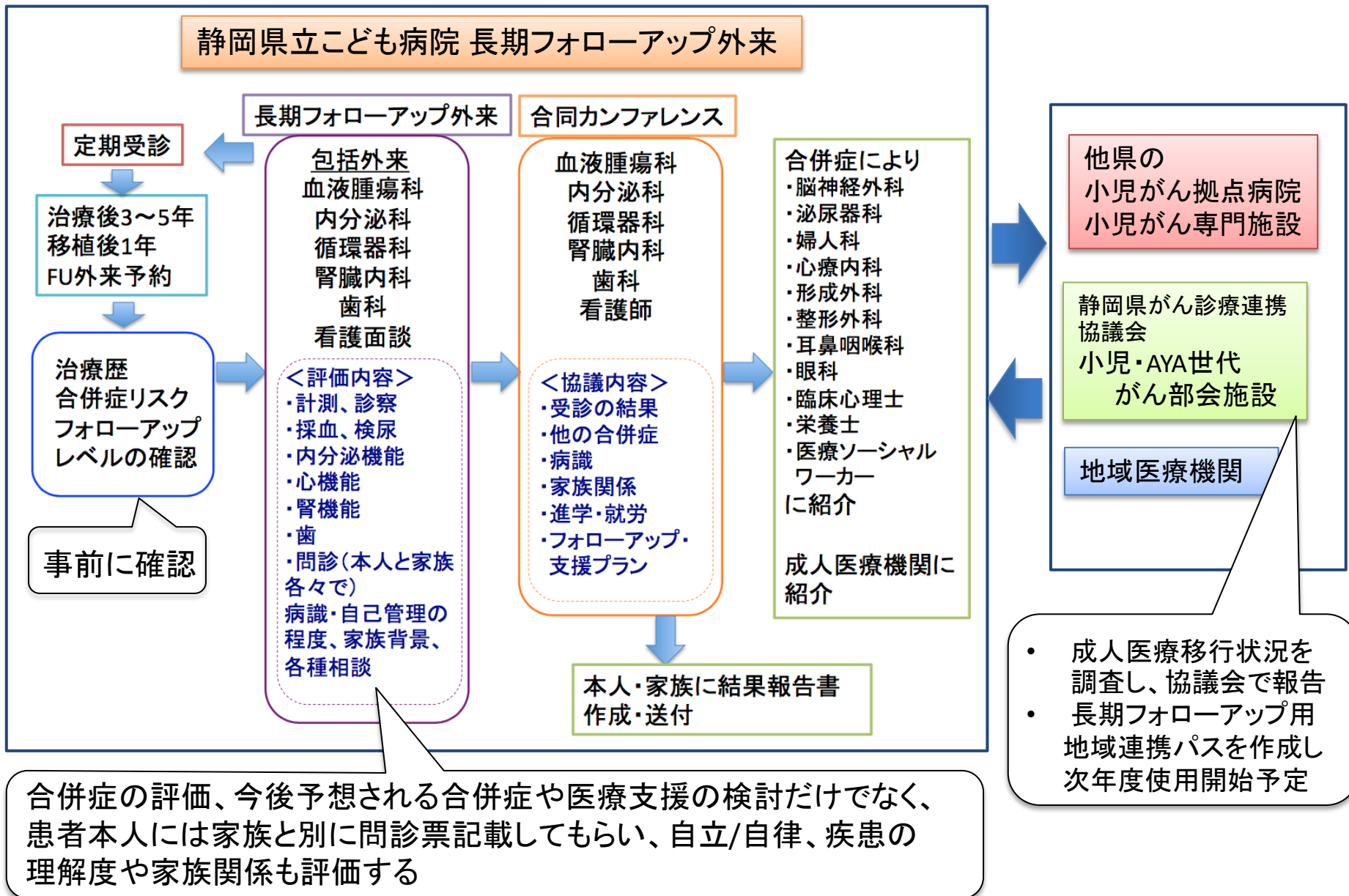
静岡がんセンター・こども病院合同カンファレンス

- 対象：固形腫瘍、脳腫瘍
- 検討内容：陽子線照射の適応、照射範囲、照射量
両施設受診患者の経過の確認
治療方針
- 参加者：こども病院（血液腫瘍医、小児外科医、脳神経外科医）
がんセンター（小児科医、陽子線治療医、放射線治療医）
- 頻度：2ヵ月に1回開催、必要時に臨時開催

適切な陽子線治療適応、方法の検討・評価

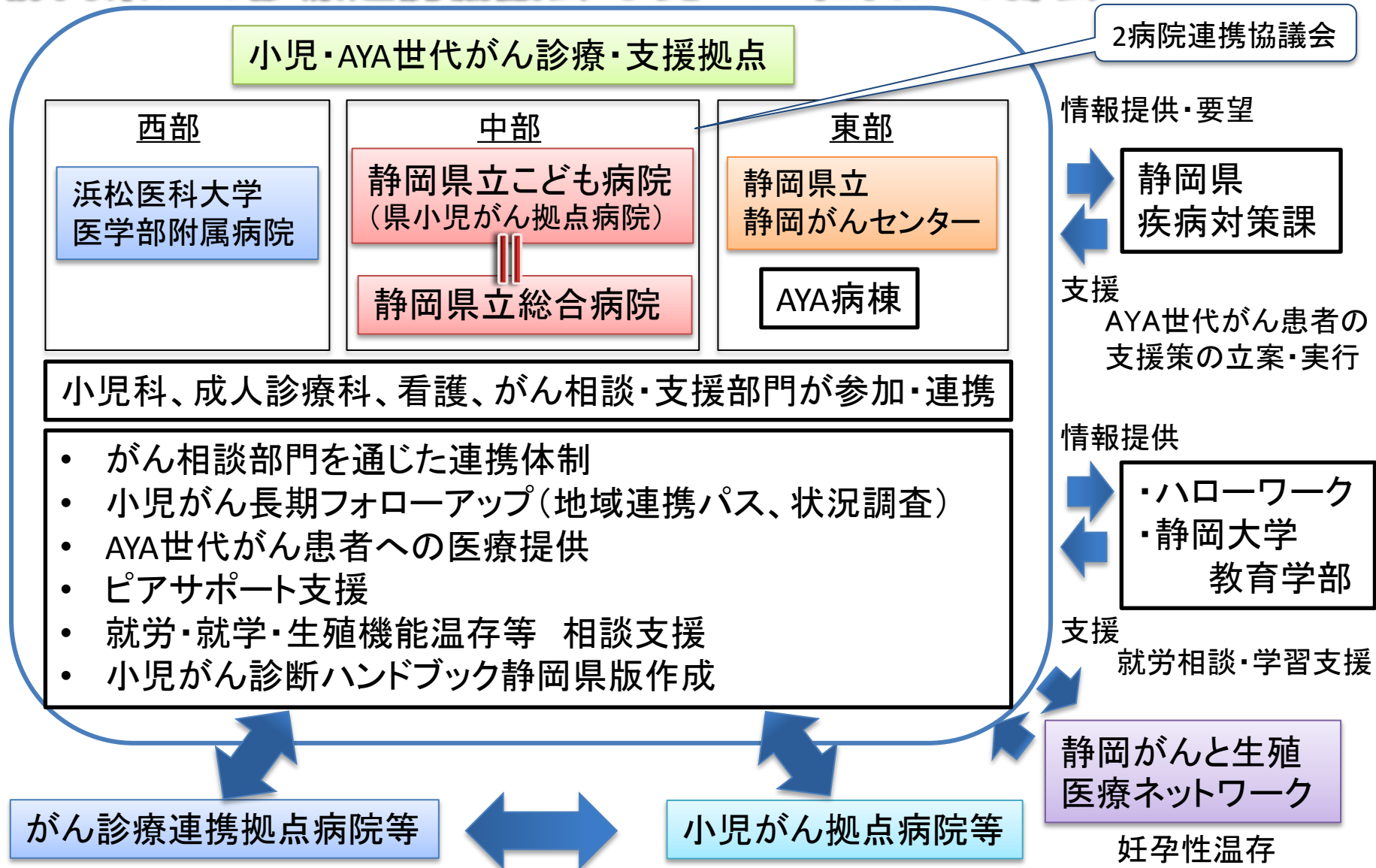
3. 長期フォローアップ体制について

静岡県立こども病院 長期フォローアップ外来



4. AYA世代のがん患者への対応

静岡県がん診療連携協議会 小児・AYA世代がん部会



5. 緩和ケアの提供体制

静岡県立こども病院緩和ケアチーム

(2009年6月活動開始)

緩和ケア医（小児総合診療科医）、緩和ケア医（血液腫瘍医・在宅クリニック医）
緩和ケア認定看護師、血液腫瘍医、精神科医、麻酔科医、薬剤師、臨床心理士、
CLS、保育士、ファシリテードッグ&ハンドラー

カンファレンスには
ファシリテードッグも参加

緩和ケア
提供体制

入院患者

外来患者

緩和ケアチームに依頼

緩和ケア外来予約・受診

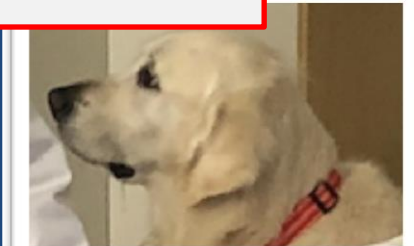
緩和ケアカンファレンス

内容：担当医が参加し、現状評価、診療・ケア方針の検討・
提案、対応職種の検討

頻度：週1回

緩和ケアラウンド

緩和ケア医、緩和ケア認定看護師がカンファレンス前後に
回診、患者・家族の診察・面談、担当医師・看護師と
情報共有、協議



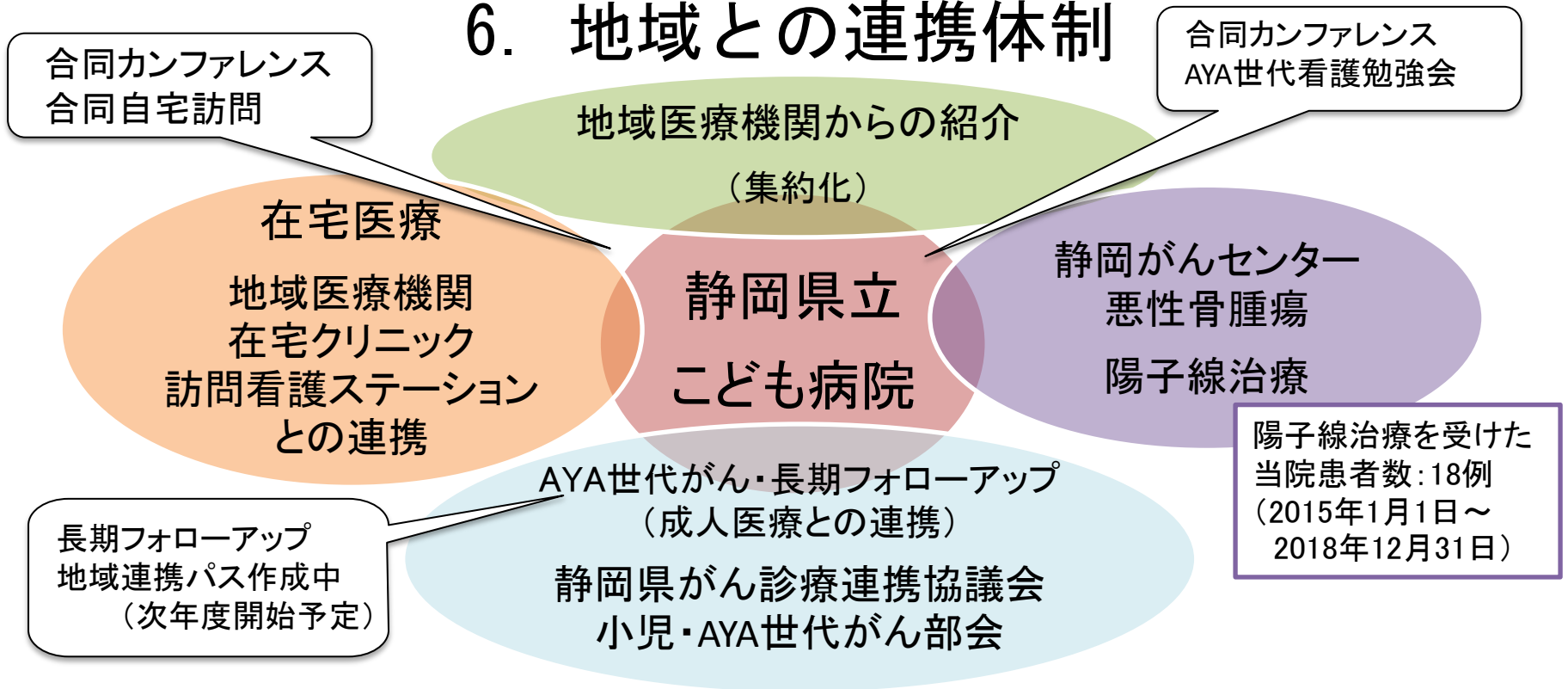
カンファレンス内容に基づき、担当医師、看護師、本人、家族と相談し方針決定、実施

緩和ケアカンファレンスにフィードバック
再評価、最適化

グリーフケア部会

月1回カンファレンス、年2回遺族会を開催

6. 地域との連携体制



医療機関からの紹介数及び他施設への紹介数 (2017年1月1日～12月31日)

他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数	37
小児がん患者の他施設への紹介患者数	70

在宅支援における地域医療機関との協力連携実績

医療施設	富士宮市立病院、富士市立中央病院、沼津市立病院、榛原総合病院、中東遠総合医療センター 静岡県立静岡がんセンター、北西医院、北伊豆往診クリニック、榛原総合病院訪問診療、あおぞら診療所しずおか
訪問看護 ステーション	訪問看護ステーションエコー、ラポールあい訪問看護ステーション、訪問看護ステーションみなみ 訪問看護ステーション掛川、訪問看護ステーション榛南

7. 診療実績について

- ・ 静岡県中部及び東部の小児がん患者が**当院へ集約**されている。
- ・ 静岡県西部、愛知、岐阜など東海北陸ブロック内および山梨、神奈川の患者や**先天性心疾患**を抱える小児がん患者を受け入れている。
- ・ 中枢神経系腫瘍を含むほぼ**すべての疾患を数多く**診療している。
- ・ **再発・難治例**にも対応している。
- ・ **非血縁者間同種骨髄移植、臍帯血移植、HLA半合致移植**も行っている。
- ・ **骨髄バンクドナーからの骨髄採取**を行っている。

年間新規症例数（平成29年1月1日～12月31日）

年間新規症例数（平成29年1月1日～12月31日）

造血器腫瘍合計

23

固形腫瘍合計

36

ALL

12

神経芽腫瘍群

5

AML

3

網膜芽腫

1

まれな白血病

0

腎腫瘍

3

MDS／MPDのうちCML

0

肝腫瘍

1

MDS／MPDのうちCMLを除く

1

骨腫瘍

0

Non-Hodgkin Lymphoma

2

軟部腫瘍

1

Hodgkin Lymphoma

0

胚細胞腫瘍

9

その他のリンパ増殖性疾患

0

脳・脊髄腫瘍

15

組織球症（HLH）

2

組織球症（LCH）

2

その他の組織球症

0

その他の造血器腫瘍

0

Down症TAM 登録

1

その他（診断名も記載すること）

子宮頸部明細胞癌 1

8. 小児・AYA世代のがん患者の相談支援・ 情報提供体制について

他の行政機関、学校等との連携

行政機関等との連携

- ・ 静岡県小児がん拠点病院に指定
- ・ 小児・AYA世代がん部会事務局として県疾病対策課と連携

教育関連、学校等との連携

- ・ 特別支援学校による院内学級（病棟との定期カンファレンス）
- ・ 原籍校との多職種復学カンファレンス
- ・ 幼稚園・保育園との復園カンファレンス
- ・ 県教育委員会の小中学生に対するがん教育の支援

生殖医療への相談対応

- ・ 静岡がんと生殖医療ネットワークを活用した生殖医療施設との連携
- ・ 長期フォローアップ外来におけるAYA世代患者へのセクシャリティ支援

NPO法人

がんの子どもへのトータルケア研究会静岡に参画

- ・ 医療従事者、患者・家族が理事を行い、会を運営
- ・ 上記職以外に、学生、一般市民も参加する研究会を年2回開催

就学・就労への対応

就学支援

- ・ 県教育委員会と連携し入院中受験生の院内受験
- ・ 高校段階（高校進学準備段階を含む）の患者に対して、静岡大学教育学部学生のボランティア学習支援（同大学教官の指導の元、学生が患者に合わせた学習計画を立案し、定期的に情報交換を行い、治療状況の変化に合わせた学習支援を展開）

就労支援

- ・ ハローワークとの連携（静岡労働局と業務提携）

患者活動への支援

- ・ 県内小児・AYA世代がん患者会との連携
- ・ 「小児・AYA世代がん患者のピアサポート会」開催（自施設開催および静岡がんセンターと 共催開催）

相談・情報提供

- ・ 小児がん相談室
 - ✓ 外来棟窓口、メールから相談
 - ✓ 相談対応、情報提供、地域連携
- ・ 図書室
 - ✓ ヘルスサイエンス情報専門員上級資格を持つ図書司書による情報提供

9. 臨床研究の体制・実績

日本小児がん研究グループ(JCCG)研究

- 臨床研究参加
ALL、AML、悪性リンパ腫、TAM、JMML、LCH、HLH、
神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫
- 委員会活動
 - 1) TAM委員会委員長・JCCG運営委員・肝腫瘍委員会委員
(高リスク肝芽腫担当としてJPLT-3H試験を遂行)
 - 2) MLL委員会委員
 - 3) 腎腫瘍委員会委員 (小児外科医)

国際共同研究(肝腫瘍)

- 国際共同医師主導治験 AHEP0731に参加
- SIOPEL associate memberとして国際共同データベース構築、臨床試験の立案、実施に参画

Down症TAM、白血病発症に関する研究

- 高感度遺伝子解析による潜在性一過性骨髄異常増殖症(silent TAM)の診断と臨床的意義に関する研究(AMED)

ブロック内外施設との共同研究

- 抗がん剤感受性試験 (浜松医科大学小児科)
- 小児白血病遺伝子解析 (名古屋大学小児科)
- 小児がん幹細胞研究 (京都大学) など

院長

臨床研究管理センター

臨床研究管理、教育・研修、研究支援

治験管理室

臨床研究室

倫理委員会

研究審査・承認

特定臨床研究小委員会

院長の諮問を受け
特定臨床研究のチェック

治験審査委員会

臨床試験の実施総件数(平成29年1月1日～12月31日)

20

臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成28年1月1日～12月31日)

4

治験の実施総件数(平成28年1月1日～12月31日)

3

10. 患者の発育及び教育に関して必要な環境整備



小中学生

当院に併設する
県中央特別支援学校に
よる院内学級



高校段階

静岡大学教育学部
学生による
学習支援ボランティア

「きょうだいの会」

保育士、CLS, HPSが主催
(2009年～年7回延べ59回開催)
遊びを通し、きょうだいが主役に
なる環境を
提供して
終了後は
感謝状を
授与する



プレイルーム

保育士による玩具・教材等環境整備



中高生向け

teenager room
学習室の設置



おやつバイキング・食育

一緒に考えながら
参加型の食育を定期開催
(年4回)
お茶など、県特産物を
用いた食育も実施している

長期滞在施設

「コアラの家」

当院に併設
ナースコールや
内線電話を完備



11. PDCAサイクルについて

課題	目標	目標達成の評価	活動
当院で診療困難な再発・難治例の診療	臨床試験、治験の実施、参加によって、治療開発に寄与すると共に、治療機会を増やす。	臨床試験・治験の件数、内容を年1回評価する。	臨床研究管理センターと協力し、臨床試験のみならず治験の実施、参加を進める。ブロック内外の治験実施状況を把握し、他施設と連携、患者への情報提供を行う。
小児・AYA世代がん患者、経験者の診療・支援	長期フォローアップ患者の成人医療移行システムの確立	成人医療移行を行った患者の件数、状況を年1回集計し、評価する。	小児・AYA世代がん部会で、医療機関のネットワークを確立し、地域医療連携パスを作成する。
化学療法の精度向上	スタッフの化学療法に関する知識・技能を向上させる。	講演会出席確認、グループワークで知識・技能取得の達成度を確認する。	外来化学療法運営委員会による化学療法講習会を定期的に開催する。
患者満足度向上	入院患者、外来患者の満足度向上	年1回患者満足度調査を行う。 院内10カ所に設置した「ご意見箱」により患者の意見を吸い上げる。	患者満足度調査の結果および患者意見については病院幹部会議、管理会議に報告、関係する部署や委員会等で改善策を立案し実施する。

12. 医療安全

- 作業環境と療養環境の安全確保
(中央材料室と連携した、各種カラーシリンジの導入や、ベッド柵に取りつける打撲防止カバーの共同開発など)



- 医療安全管理室による院内ラウンド

- 未承認薬・保険適応外使用
倫理委員会に申請し承認を得たのち、
薬事委員会で検討して使用する

医療安全の
ための
多職種連携

医療安全
レポートの
共有

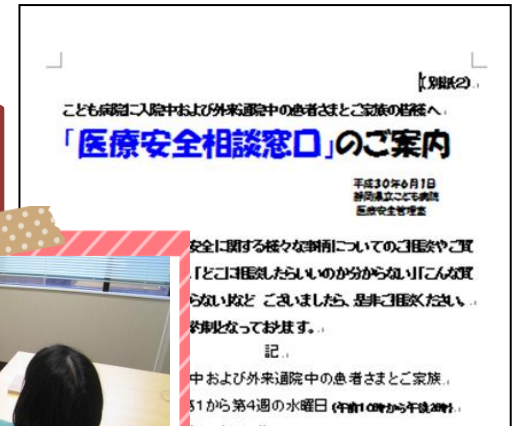
医療者と
患者の
架け橋

- セーフティマネージャー
委員会の開催



- 職員エリアにおける
医療安全レポート分析結果
のポスター掲示

- 医療安全相談窓口の設置
- 医療メディエーターによる
患者介入



医療安全

13. その他の特記事項

- 小児専門病院における小児・AYA世代がん診療の特徴
 - 小児・AYA世代がんのエキスパートが診療にあたっている。
 - 地域内小児がん診療の集約化ができており、地域医療機関との円滑な連携が確立している。
 - 小児に特化した診療機能を有し、全国に先駆けて緩和ケアチームの設立、CLSの導入、動物介在療法を開始する等多職種による手厚い患者・家族支援を行っている。
 - 全国有数のPICU、循環器センター、CCUがあり、全身状態不良、重症心疾患をもつ小児がん患者について対応が可能である。
 - 静岡がんセンターと連携し、陽子線治療を始めとする先進治療、小児・AYA世代がんに従事する看護師の教育支援の協働実践など、互いの長所を生かしながら、小児・AYA世代がんのトータルサポート体制を構築している。
 - 小児・AYA世代がん部会を通じ、AYA世代がん、長期フォローアップについて、成人医療機関、生殖医療機関、行政との連携を図っている。
 - NP0法人ががんの子どものトータルケア研究会静岡、座談会の主催・参加を通じ、ピアサポート、患者会との協力を積極的に行っている。
 - こどもの社会復帰である学校関係者・行政機関と連携し、スムーズな復学支援、高校生の学習支援など、がんのこどもの社会復帰支援を多面的に実践している。

➤ 新たな取組み

- 小児・AYA世代がん部会を通じ、クリニックを含む県内成人医療機関と連携して、**スムーズな成人移行支援システムを「静岡モデル」として構築する**
- **こどものがんに対する理解を促し、がんのこどものスムーズな社会復帰の一助として、がん教育への参画を計画している**
- **次年度、小児がん患者を収容する病棟の改築工事を行い、AYA世代のための場所、時間、職員の配置を見直し、成長発達が大きく異なる小児～AYA世代のがんのこどもたちに適した療養環境を設置する**

